

## 原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成29年7月11日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：松浦長官官房総務課長

### <本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○松浦総務課長 それでは、私から2点御報告がございます。

まず、第1点目ですけれども、本日の11時56分ごろに発生いたしました地震についてでございますけれども、既に原子力規制委員会のホームページで皆さんにお知らせしておりますが、この鹿児島県で発生した地震につきまして、各原子力施設の異常情報は入っておりませんので、改めて私の方から御報告をさせていただきます。

続きまして、皆様のお手元の広報日程に基づきまして、私の方から補足説明をさせていただきます。

まず、1ページ目、1. (1) 番、今週水曜日の原子力規制委員会についてでございます。議題は6つございます。

まず、議題の1番目でございます。こちらは平成29年度の原子力総合防災訓練、こちらにつきましては、内閣府原子力防災の方が担当でございますけれども、本年9月上旬に九州電力の玄海原子力発電所で行われることが予定されております。この原子力総合防災訓練計画に対しまして内閣府の方から意見照会がございましたので、原子力規制委員会からの回答案について原子力規制委員会で御審議していただき、決定していただく予定でございます。

続きまして、議題の2番目でございます。議題の2番目は、東京電力の福島第一原子力発電所の中期的リスクの低減目標マップについてでございます。こちらにつきましては、定期的に改定をしております、直近は昨年12月でございます。その後の進展を踏まえて、今般、リスク低減目標マップについて改定することについて、原子力規制委員会の了承を頂く予定でございます。

続きまして、議題の3番目でございます。こちらは福島第一原子力発電所の放射性廃棄物につきまして、その処理方法等について検討しております放射性廃棄物規制検討会の有識者の追加についてでございます。地元有識者を追加する案を事務方で作成いたしましたので、このことについて原子力規制委員会の了承を得るものでございます。

続きまして、こちらは東海再処理施設の廃止に向けた現状と今後の対応についてでございます。皆さん御承知のように、本年の6月30日付で、東海再処理施設については、

廃止措置計画の認可の申請があったところでございます。これを踏まえまして、現在、この東海再処理施設の廃止に向けた現状、具体的には東海再処理施設のガラス固化処理の実施状況について、事務方から説明するとともに、廃止措置計画の認可に向けた今後の対応につきまして、原子力規制委員会の了承を得るものでございます。

続きまして、議題の5番目でございます。議題の5番目は、JAEAの試験研究炉でございますJRR-3に関してでございます。こちらにつきましては、本年6月19日の審査会合におきまして、JAEAの方からJRR-3につきましてグレーデッドアプローチを適用したいとの提案があったところでございます。また、本年6月28日の原子力規制委員会におきましても、核燃料施設等の適合性審査の状況について説明があった際に、JAEAからの提案に関しまして、考え方が適切かどうか委員会で議論すべきとの意見があったところでございます。今般、事務方でこのJAEAの提案につきまして、事務方として評価と今後の対応について、原子力規制委員会にお諮りするものでございます。

最後、議題の6番目でございます。議題の6番目は、平成32年度にいわゆる新検査制度について即応する予定でございまして、現在、規則等の準備、また、実務上の準備を進めているところでございます。このため、本年10月から原子力規制庁及び原子力安全人材教育センターの職員の科学的・技術的専門性を維持・向上させる資格制度を導入したいと考えております。この資格制度につきまして、原子力規制庁、事務方から原子力規制委員会に報告するものでございます。

続きまして、2ページ目、7月13日木曜日、(3)番の審査会合でございます。

議題は2つございまして、まず、日本原電・東海第二発電所につきまして、防潮堤につきまして日本原電から説明を伺う予定でございます。また、全電源喪失時の対策についても日本原電から説明を伺う予定でございます。

議題の2番目は、東京電力・柏崎刈羽発電所6号機、7号機につきまして、補正申請書が提出されたところでございますが、この補正を更に修正、いわゆる再補正ということになると思いますが、その方針について東京電力の方から説明を伺う予定でございます。

続きまして、2ページ目の一番下、7月18日火曜日、日本原子力研究開発機構部会でございます。こちらは昔のいわゆる独法の評価部会でございます。議題の1番目といたしまして、部会長と部会長代理の指名を互選していただくということに続きまして、平成28年度のJAEAの業務実績について説明があり、議論をしていただく予定でございます。

私の方からは以上です。

## <質疑応答>

○司会 いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問の方をお願いします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。ハナダさん。

○記者 NHK、ハナダです。

明日の定例会の議題の4番目で先ほど御説明いただいたのですが、今後の認可の対応と

いうふうなものは、今、東海の監視検討チームとかがあると思いますけれども、ああいったところで認可に向けた審査とかを行うとか、そういったところを決めていくというのが大きい認識でいいでしょうか。

○松浦総務課長 そうですね。こちらについては、いわゆるロジスティックな話として、現在、東海再処理につままして監視しています監視チームが、審査も含めて、今後の安全確保の状況についてもこの監視チームでやっていくということについて、了承を得るということでございます。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほかにございますでしょうか。スミさん。

○記者 共同通信のスミです。よろしくお願いします。

昨日の東電の会長、社長への説明聴取だったのですけれども、その際に川村会長が、汚染水タンクの余裕について、2年ほどだというふうな説明がありましたけれども、その後の東電の定例会見の方で事実誤認があったというような説明をされたのですけれども、東電から規制委員会の方にそこは改めて説明か何かあったのでしょうか。

○松浦総務課長 すみません。私は事務的にどのような説明があったのかは承知しておりませんが、いずれにしても、昨日の意見交換会で原子力規制委員会として規制委員会の7つの基本的考え方をお示しし、そこで意見交換があり、その中で東京電力の方のマネジメントから答えを頂けなかったことについて、また改めて書面で頂くということですので、そういった中で、汚染水対策も含めて書面で今後の具体的スケジュール、計画についても示されるものと期待しております。

○記者 規制委員会の方からは、7つでしたか、基本的な課題というか、問題意識について提示があったと思うのですけれども、意見交換の場ではそこまでたどり着けずに、途中の段階で時間が来て終わったと思うのですけれども、その意見交換できなかった部分については、また書面でのやり取りということになるのでしょうか。

○松浦総務課長 そうですね。昨日の最後、委員長の方から東京電力に要請したのは、我々のポジションというのは基本的考え方で示したとおりでございますし、また、意見交換の中で更に突っ込んだやり取りもありましたけれども、そういったものも含めて東京電力の基本的考え方を書面で頂きたいということでございますので、そういうかなり包括的な原子力事業者としての東京電力の考え方というのを頂けるものだと期待しております。

○記者 最後に1点。やり取りを拝見していて、かなりかみ合わなかったというか、規制委員会側の厳しい指摘について、何ら具体的な回答ができなかったように見受けましたけれども、規制委員会、規制庁側としてはどのように受けとめていらっしゃるのでしょうか。

○松浦総務課長 昨日の意見交換会を見ていただければお分かりになると思いますけれど

も、委員長を含め各委員からかなり厳しい指摘があったというふうに私も認識しております。事務方からあえてそのことについて評価すべきではないと思いますし、見ていただいたとおりでと思いますので、いずれにしても、先ほどから申し上げましたように、それを踏まえて東京電力がどういうふうに書面で回答してくるのかというのを原子力規制委員会としてはお待ちしているということになると思います。

○記者 いろいろ回答するという事は、まだ来ていないのですよね。

○松浦総務課長 まだ承知しておりません。

○司会 ほかにございますでしょうか。ナガイさん。

○記者 共同通信のナガイです。

13日木曜日の審査会合なのですけれども、これは原電の東海第二が先で、その後が東電の柏崎刈羽という順番でしょうか。

○松浦総務課長 はい。1番目が日本原電、2番目が東京電力というふうに聞いております。

○司会 ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。お疲れさまでした。

—了—